

2022年・2023年
合併号
No.516

生命の炎
いのち

東京ふれあい医療生協

LINE公式アカウント
登録をお願いします!

http://www.fureaico-op.info

生協の現況(2022年11月末日現在)
組合員数=16,372名 出資金総額=466,915千円

●発行所:東京ふれあい医療生活協同組合
〒114-0004 東京都北区堀船3-27-12
電話 (03)3911-3630

●編集:『生命の炎』編集委員会 ●発行人:百瀬 文也



一昨年前より続くコロナ禍ではありますが、パンデミック当初から段々と状況が変わり、ポストコロナあるいはウィズコロナといった言葉が出てくるようになりました。新型コロナウイルス感染症は完全にはなくなることはありませんが、少しずつコロナ禍以前のような生活を取り戻していくことが求められているのだと思います。そして生協ウィズコロナ・コロナ禍を乗り越えた後、再び生協として地域にどのように貢献するかを考えると、やはり生協としてその名の通り「ふれあい」をどれだけ地域に取り戻せるか。ここに生協がどれだけ確信を持てるかが大切だと考えています。コロナ

禍ではウェブ・オンラインでの取り組みも増やしてきた生協ではありますが、やはり直接会ってコミュニケーションをとることが必要だと思えます。そして、生協全体としては地域・組合員の高齢化は避けて通ることができない課題です。東京ふれあい医療生協内での調査において、今後10年の間に組合員数と出資金額が大きく減少することが推計されています。このような状況において、生協は組合員増やし、出資金増やしをしっかりと行っていくことが重要です。そして、そのためにはこれまで生協に関わってこなかった、新たに地域デビューを果たす60代の方々が心地よくセカンドライフを送ることができるよう取り組みを実現していきたいと思っています。

最後にそのような取り組みもやはり医療生協としての事業継続が前提となります。そのため長年の課題である医師確保、とくに若い医師の確保に取り組んでいきたいと思っています。今後も医療生協は組合員の皆さんの健康なまちづくりに邁進してまいります。

2020年から続くコロナ禍でそれまでの事業・活動は大きく変わることになりました。やむを得ないことではありましたが、医療介護事業は発熱者の対応に追われ、地域活動の多くが停止しています。職員育成や地域組合員づくりに関しても生協らしい事業や活動に関わる機会が減ったことが大きな課題となっていると思います。

そのような状況だからこそ、今年は生協として改めて原点に立ち返り、医療生協人の育成・生協らしい活動が求められているのだと思います。それぞれの立場や役割が違ったとしても職員・地域が一体となり、同じ言語・同じ目標で、一緒にやってまちづくりを行っていく必要があると思います。そのためにも広くふれあいクレドを知ってもらうことが大切です。もちろん、これらまちづくり・健康づくりのために健全な経営、生協がしっかりと未来にも続く持続可能な経営にしていけることが必要です。

三方よし、という言葉があります。江戸から明治時代にかけて日本各地で活躍した近江商



人が大切にしてきた考えです。買い手よし・売り手よし・世間よしで、自らの利益だけでなく、相手の利益だけでもなく、関わる全員が幸せになるように事業を行うことが長く繁栄していくために大切ということです。

生協の事業・活動も、職員・組合員・地域の関わる全ての方々が幸せになれるよう、ふれあいクレドの言葉のように、「人と人との」を大切にし、ともに助け合い、支えあって、地域の問題に立ち向かう」ことが大切です。今年1年も健康づくり・まちづくりはもちろん、職員が働く環境づくり・未来につながる経営改善など、三方よしの考えで、職員・組合員の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

ポストコロナ時代に
向けて

理事長 土屋 悟史

今こそ
生協人育成を

副理事長 渡辺 章

あけまして
おめでとうございます

東京ふれあい医療生協は2023年も組合員の皆さんとともに医療介護事業と健康なまちづくりに取り組みます。今回は年頭のあいさつとして理事長・副理事長から新年の抱負を伺いました。

梶原診療所
利用委員会
掲示板
虹の声

声「4歳」さいけつめちゃんあばれて泣いて、本当にごめんさい。レントゲンもあばれまへてすみませんでした。ありがたうございました。」

診療所より 可愛いお手紙ありがたうございます。各担当部署に報告しました。

声「健診の予約電話をかけても名前を最初に名づけない。以前より対応が悪い」

診療所より 先日の接遇研修で電話の受け方を研修したばかりですが、再度電話の対応について注意確認します。

声「トイレのドア側のフックの位置が高いので、トイレのドアの反対側のフックにカバンをかけたら便座の操作ボタンが隠れてしまって不便」

診療所より ドア側のフックを低い位置にとりつきました。ご利用ください。

声「待合室の椅子、全席座れるようになったら、禁止部分に比べて座れていた部分の汚れが目立つ」

診療所より ご指摘ありがとうございます。洗剤で拭いてきれいになりました。

声「玄関風除室が傘立てや車いすが整理されておらず雑然としている。入口なので整理していただきたい。」

診療所より 整理しました。今後は医事課で責任者を決めて、玄関の整理整頓を心がけます。

「虹の声」の箱
ご活用ください!

2022年度 理事会 から

1. 経営状況	2022年	9月	事 業 収 益	1億2844万円 241万円
		10月	事 業 収 益	1億1923万円 -182万円
		累計	事 業 収 益	8億5948万円 3334万円

2020年度から黒字が続いておりましたが、10月に経常剰余が赤字となりました。生協ビルの解体費の支払いなどが主な理由と考えられます。経常剰余の累計としては3300万円を超える黒字となっておりますが、今後も生協ビル建設の費用等も発生していきます。これを見込み、しっかりと全事業所の経営改善を進めていきます。

2. 生協ビルについて

12月より生協ビルの全面解体を開始しています。新しい生協ビル建設に向けて着々と準備を進めています。

生協ビル経過 12月より解体を開始しました。

3. 梶原診療所デイサービスについて

既にご報告しております通り梶原診療所デイサービスは2023年1月31日をもって業務を終了することとなりました。改めてご支援いただきました組合員・地域の皆さまには心より御礼申し上げます。

キッズ
メディカル
vol.113

ルート胸とは

健診で診療所に来られるお母さん方で時々「胸がへこんで見えるのですが病気でしょいか」と尋ねられます。

「ルート胸」と言われています。胸骨の一部が陥凹している疾病を言い、肋骨の変形が原因と言われています。

陥凹の程度は人それぞれに違いがあります。原因ははっきりしませんが、肋軟骨の成長が、他よりより早く成長するために起こるのではないかと考えられています。

乳幼児期にはさほど目立たないルート胸も思春期になると目立ってくる場合が多いようです。

陥凹が軽い場合は、姿勢の矯正や筋肉の増強により対応できますが、多くの場合治療は手術により行われます。以前は、かなり大掛かりな手術だったのですが現在は簡単な手術になってきました。

手術は、肺機能が低下したり心臓に悪い影響を与える場合は、必ず必要と考えられます。陥凹により見た目がかわいそう、ということでも最近では手術される方もいます。手術の適応は5〜10歳ぐらいが最適といわれています。いずれにしても胸の陥凹が気になる場合は相談してください。

(倉信)

LINE公式アカウントのお知らせと
機関紙の電子化について

〈LINE公式アカウントのお知らせ〉

LINE公式アカウント「東京ふれあい医療生協」を開設しました。イベント情報やお知らせを中心に、機関紙の更新など、様々な情報をお届けします。梶原診療所とふれあいファミリークリニックの診療予約も、LINEから可能になります。

ぜひ東京ふれあい医療生協LINE公式アカウントを、「友だち」追加してください。LINEの「友だち追加」画面から、「QRコード」を選択し、右のQRコードを読み込んで追加可能です。

〈機関紙の電子化について〉

生命の炎の電子化を積極的に推進しております。紙の機関紙送付が不要になった場合は下記連絡先までご連絡ください。バーコードからメールアドレス読み込み可能です。メールの場合は、

●氏名 ●組合員番号(わかれば)

●生年月日 ●住所

を記載してください。

メールアドレス: ichiishi@fureaico-op.com

組織部電話番号: 03-3911-2005(受付時間午前10時〜午後5時)

ご意見・ご質問・紹介したい記事などございましたらお気軽にお寄せください。

宛先 東京ふれあい医療生活協同組合 機関紙編集委員会
〒114-0004 北区堀船3-27-12

TEL 03-3911-2005 FAX 03-5944-6015

ワード等で作成したデータをメールで送っていただいても構いません。その際は右記メールアドレスまでお送りください。

MAIL soshiki@fureaico-op.com

〆切 前月の第1月曜日まで。

(3月号に掲載したい場合、2月の第1月曜日までに原稿を送ってください。)

※必ず原稿を送る方の名前、住所、連絡の取りやすい電話番号を記載してください。



生協への熱い思いを語る職員

役職員組合員交流会

11月13日、昭和町ふれあい館で役員・職員・組合員総勢42名で交流会が行われました。交流会では役員・組合員が一緒に地域の課題や生協の未来について熱く議論を交わしました。コロナ禍で久しぶりの交流会ということもあって長い時間ではありましたが最後まで皆さん話が尽きることはありませんでした。

【議論の後はそれぞれのグループから報告】組合員も職員も生協の未来像について報告しました。

- 「健康づくりから看取りまで」地域に開かれた診療所となろう
- 町会や他生協とのコラボをしたい！
- 多世代サロンやワンコイン食堂をしてみてもいい？
- 生協を語れる人になることが必要

などなどいろいろな意見がだされました。



宮の前診療所事業紹介

共に歩む第一歩はお互いを知り合うことからそれぞれの事業所について紹介しました。



【報告をもとにグループに分かれて論議】役職員・組合員・ベテラン・若手など分け隔てなく、それぞれが思う生協の未来について語り合いました。時には、今のままではダメ、時代に合わせた変わらなければ！と熱くなることもありました。



生協のこれまで・現在・未来について、そして生協ビルの建て替えについて報告をしました。



最後に福地常務から1日のまとめが報告されました

〈みんなが大切にしたいこと〉
「この地でくらし続け 安心して老い その人らしい最期を支えること」が生協に求められること。そのためには無関心・現状維持ではなく、みんな一緒に変わっていくことが必要の思いが語られました。

参加された方々の感想からは

- 世代交代の時期を改めて考えさせられた
- 看取りまで行っている医療介護事業は尊敬に値する
- それぞれの職場で信念や思いを持って仕事をされているのは誇らしい
- 組合員の熱い気持ちを知ることができ心打たれた
- 自分が生協人になる、自分がPRできるように頑張ろうと思った
- 職員と組合員で感じていることのギャップを知ることができた
- コロナ禍を抜け出す第一歩になると確信した

などなど生協の未来に向けての前向きな意見がたくさんだされました！

オールふれあい 生協仲間づくり月間

おもいをかたちに

あなたが主役のまちづくり



栄町支部訪問拡大



梶原診療所外来拡大

2015年度より10月から11月の2ヵ月間を「オールふれあい生協仲間づくり」として位置づけ、安心して住み続けられるまちづくりの実現のため生協組織基盤の強化に取り組んできました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年度、2021年度と、私たちが大切にしてきた人と人の心がふれあう活動が思うようにできず、様々な地域活動の取り組みの活気が失われつつあります。地域では孤立する高齢者や日々のくらしに困窮する方などもみられ、あらためて地域のつながりや支えあいの仕組みを取り戻していくことが求められます。

2022年度、身近で頼れる医療生協として再びふれあいを取り戻すため、感染予防をしっかりとしながらオールふれあい生協仲間づくりに取り組みました。

月間中は、看護部学習会・介護相談学習会・梶原deふれあい健康マルシェなどを開催し、荒川ソラマルシェへも参加しました。また3年ぶりに本格的な地域訪問行動や、梶原診療所での新規加入及び増資の呼びかけを実施し、多くの方とふれあいが協力いただきました。本当にありがとうございました。

今後とも、当生協に対するご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

拡大結果！

■新規加入／177人
■増資口数／4479口

(2022年12月8日現在)

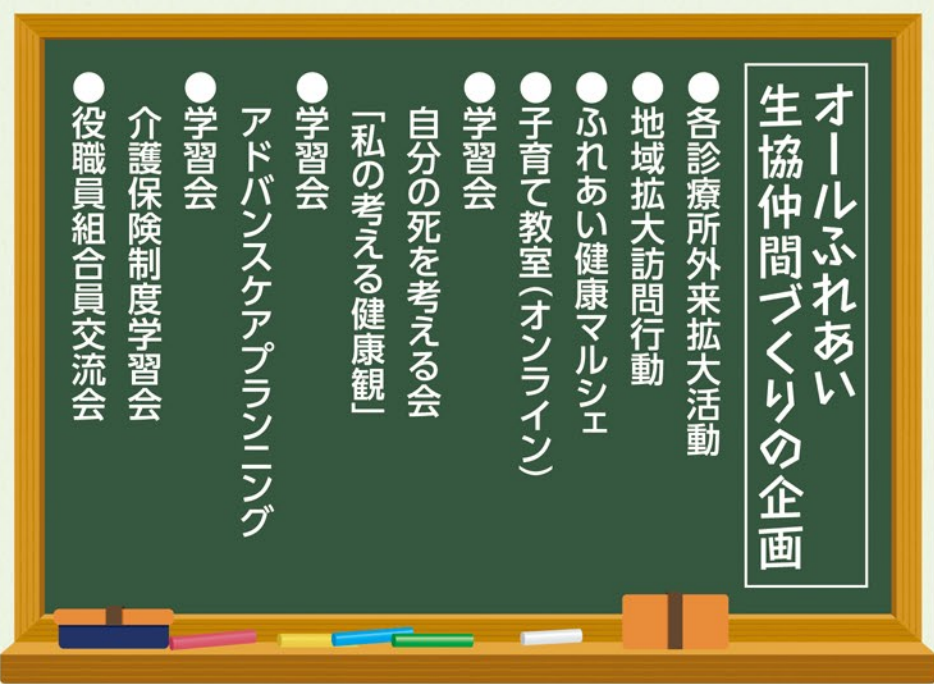


集合住宅支部訪問拡大

東尾久支部 自分の死を考える会

支部主催の恒例企画が3年ぶりに復活！最期の時までどう生きるか「死を考える会」での「健康観12」や変化球的な趣向です。事前アンケート結果の解説を受けてのグループワークは、どの班も大いに話が弾みました。

集まって話し合うという当たり前のことが出来る楽しさに包まれました。講師の土屋先生のお話を待つ声、また参加したいとの声もいただきました。お応えするべく、続編企画などを次年度も計画したいと思えます。



ソラマルシェ



梶原deふれあい健康マルシェ



看護部学習会



介護相談学習会